

平成28年度公立高等学校  
みやぎ学力状況調査 **概要**

I	調査の概要	.....	P. 1
II	調査結果の概要と分析	.....	P. 2
	1 学力状況に関する調査		
	2 教科に関する調査の結果分析と改善の方向		
	3 学習状況に関する調査		
	4 「震災後の心身の健康」、「志教育」等に関する調査		
III	学力向上に向けた今後の取組	.....	P.2 2

平成28年11月

宮城県教育委員会



# I 調査の概要

## 1. 学力状況に関する調査

- (1) 目的 生徒の学力状況を把握し、各学校における学習指導及び進路指導の改善に役立てる。
- (2) 調査対象 公立（県立・仙台市立・石巻市立）高等学校 75校  
2年生 約15,000人
- (3) 実施期間 平成28年7月1日（金）から7月8日（金）までの間、各学校で実施
- (4) 実施内容
- ① 実施教科
- ・国語、数学、英語の3教科
  - ・高校1年次に学習した内容の基礎・基本と思考力・応用力を問う問題で構成し、平均正答率を50%と設定
  - ・各教科、共通問題に加え学校選択問題を設定  
※学校選択型A問題（A問題）は知識・理解等を問う基礎的・基本的な内容の設問  
※学校選択型B問題（B問題）は思考力・表現力等を問う発展・応用的な内容の設問
- ② 実施人数
- ・国語 14,240人（A問題選択54校6,933人、B問題選択31校7,307人）
  - ・数学 14,232人（A問題選択58校7,912人、B問題選択27校6,320人）
  - ・英語 14,222人（A問題選択58校7,627人、B問題選択27校6,595人）
- ※学校数は全日制本校70校、定時制11校、分校・分校舎4校の計85校として集計

## 2. 学習状況等に関する調査

- (1) 目的 生徒の学習状況等を把握し、各学校における学習指導及び進路指導の改善に役立てる。
- (2) 調査対象 公立（県立・仙台市立・石巻市立）高等学校 計75校  
1年生 約14,800人、2年生 約15,000人
- (3) 実施期間 平成28年7月1日（金）から7月8日（金）までの間、各学校で実施
- (4) 実施内容
- ① 調査内容 生徒の学習・生活状況、震災後の心身の健康状況及び「志教育」等に係る質問紙調査
- ② 実施人数 1年生 14,508人（回収率 97.4%）  
2年生 14,246人（回収率 96.5%）

## Ⅱ 調査結果の概要と分析

### 1 学力状況に関する調査

**国語** 共通問題の正答率は、55.3%（前年度42.2%）

○ 漢字、慣用句等の基礎知識の定着は見られるが、叙述に即して論理的に正答を導き出す力に課題

- ・言語事項では、基本的な漢字の読み書き、慣用句、日本語の適切な表現に関する知識の定着は見られるものの、敬語についての理解は不十分である。
- ・現代文では、心情の変化を捉えていく力、内容を理解する力に、古典では、基本的な語句や文法を踏まえ、文章内容を正しく読み取る力に課題が見られる。

**数学** 共通問題の正答率は、48.1%（前年度42.2%）

○ 基礎的・基本的な知識・技能の定着は見られるが、グラフや数直線を用いて問題を解決する力に課題

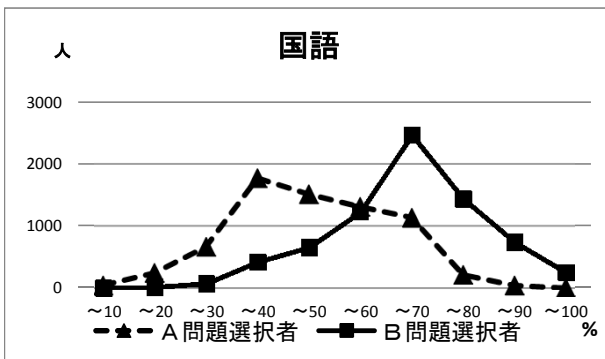
- ・整式の計算、分母の有理化、二次方程式や三角比の値を求める問題については、一定の定着が見られる。
- ・グラフや数直線を用いて問題を解決し、解答を吟味する力に課題が見られる。

**英語** 共通問題の正答率は、48.2%（前年度48.0%）

○ 基礎的・基本的な知識は身に付いているが、長文の要点や概要を把握する力に課題

- ・代名詞や過去分詞の後置修飾など、基礎的・基本的な知識については定着が見られる。
- ・長文では、内容全体の流れや要旨を捉えたり、限られた時間内で読む力が不足している。

図1-1 共通問題正答率の度数分布図



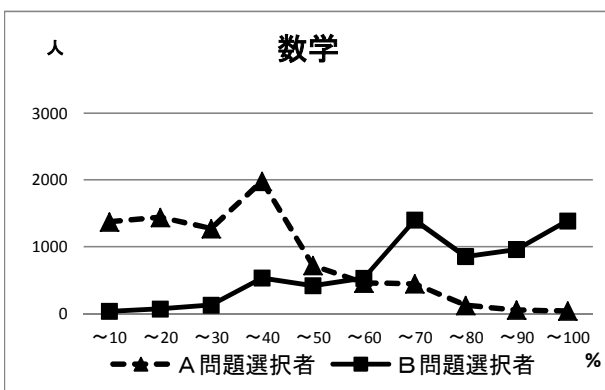
国語

<正答率>

A問題選択者	共通問題:	45.5%
	全問題:	44.9%
B問題選択者	共通問題:	64.5%
	全問題:	60.8%

<概況>

・A・B両問題選択者との間で正答率の乖離は見られるものの、両問題選択者とも基礎・基本を問う問題に改善が見られ、正答率は上昇している。



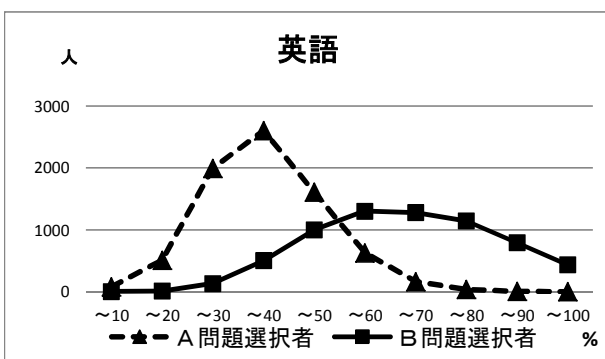
数学

<正答率>

A問題選択者	共通問題:	29.8%
	全問題:	24.8%
B問題選択者	共通問題:	69.9%
	全問題:	52.4%

<概況>

・正答率は、昨年度よりも上昇した。A問題選択者とB問題選択者間との間で正答率に乖離が見られ、特にB問題選択者の正答率が70%以上の度数が大きくなった。



英語

<正答率>

A問題選択者	共通問題:	35.8%
	全問題:	34.8%
B問題選択者	共通問題:	62.5%
	全問題:	59.7%

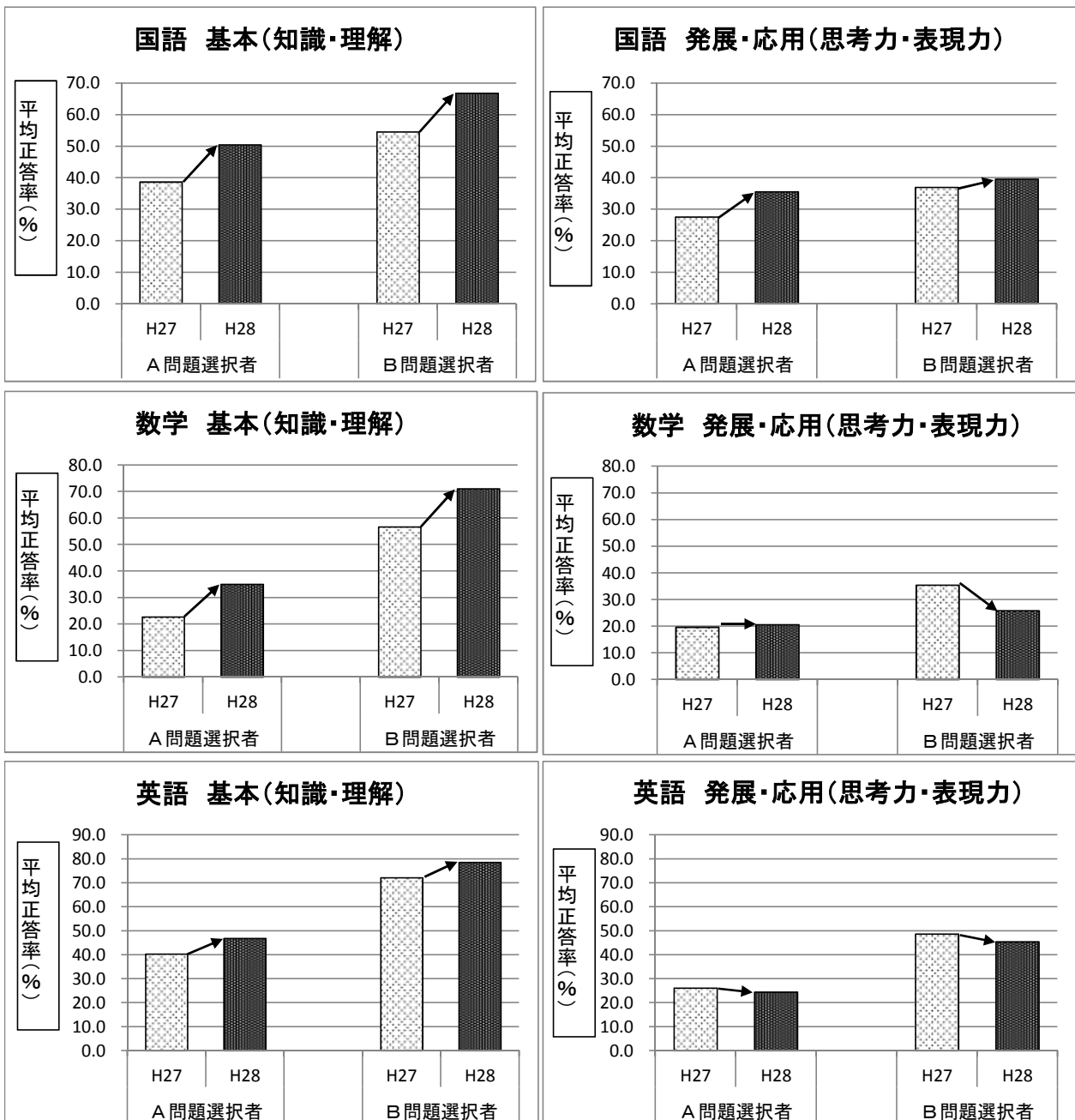
<概況>

・A問題選択者とB問題選択者との間で、正答率に乖離が見られる。特に、A問題選択者では正答率40%未満の度数が大きい。

(2) 概況(A, B問題選択者別)

- 国語** A問題選択者：共通問題の正答率は、45.5%（前年度34.2%）  
 共通問題部分を含めた全問題の正答率は、44.9%（前年度34.2%）  
 B問題選択者：共通問題の正答率は、64.5%（前年度49.9%）  
 共通問題部分を含めた全問題の正答率は、60.8%（前年度46.6%）  
 ○ A問題選択者とB問題選択者との正答率の差はあるものの、両選択者とも正答率は昨年度より上昇傾向にある。
- 数学** A問題選択者：共通問題の正答率は、29.8%（前年度26.7%）  
 共通問題部分を含めた全問題の正答率は、24.8%（前年度22.8%）  
 B問題選択者：共通問題の正答率は、69.9%（前年度60.1%）  
 共通問題部分を含めた全問題の正答率は、52.4%（前年度44.8%）  
 ○ 正答率は、昨年度よりも上昇した。しかし、A問題選択者とB問題選択者間の正答率の開きは、大きくなっている。
- 英語** A問題選択者：共通問題の正答率は、35.8%（前年度34.9%）  
 共通問題部分を含めた全問題の正答率は、34.8%（前年度33.6%）  
 B問題選択者：共通問題の正答率は、62.5%（前年度63.0%）  
 共通問題部分を含めた全問題の正答率は、59.7%（前年度59.5%）  
 ○ 昨年度よりA問題選択者の共通問題の正答率が上昇している。また、観点別の基本問題の正答率においては、A問題選択とB問題選択者の両方で上昇が見られた。

図1-2 A・B問題選択者別一観点別正答率



## 2 教科に関する調査の結果分析と改善の方向

### 国語

◎分析と課題 (◇…相当数の生徒ができています。 ◆…課題がある。)

#### <言語事項>

- ◇基礎的な漢字の読み書きについて、おおむね高い正答率である。
- ◇ことわざ・慣用句・日本語の適切な表現についても、おおむね高い正答率である。
- ◆敬語についての理解が不十分で、正答率が低い。

⇒ 課題1：敬語など、社会人として基礎・基本となる言語に関する知識・理解の定着が不十分である。

#### <現代文>

- ◇文学的な文章では、記述に沿って人物の心情を読み取る力が身に付いている。
- ◆論理的な文章では、文脈を踏まえて内容を的確に把握していく力が不足している。
- ◆論理的な文章では、全体を通して筆者の主張を把握する力が不十分である。

⇒ 課題2：論理的な文章において、文言を吟味していく力、文脈や文章全体の内容を的確に捉える力が不十分である。

#### <古典>

- ◇基本的な古語の意味、漢文の返り点の理解については、正答率が高く、定着が見られる。
- ◆動詞の活用に関する知識がやや不十分である。
- ◆登場人物の置かれた状況・行動・心情などを正確に読み取る力が不足している。

⇒ 課題3：基礎・基本の知識を押さえた上で、それらを活用して正確に状況や内容を読み取る力が不十分である。



◎改善の方向

#### <言語事項>

- ①基礎的・基本的な言語事項の定着を図るためには、様々な表現に触れさせる機会を増やすなど学習への取り組みせ方について工夫が必要である。また、言語に関する知識を用いることで、思考力や表現力の向上につながるような授業を意識し展開をする必要がある。
- ・漢字については、派生的に異字同訓、同音異義語などに触れて幅広く知識を習得させる。
  - ・ことわざや慣用句については、実際に活用する場面を提示し、意味や用例を理解させることで、具体的なイメージを伴った知識として定着させる。
  - ・敬語については、具体的な場面を提示し、状況に応じて適切に用いる能力を育成する。
  - ・学校図書館とも連携しながら読書指導を進め、様々な表現に触れさせる。

#### <現代文>

- ②論理的な文章では、文脈に沿って読み進め、論理の展開を確かめながら内容を的確に捉える力を育成する必要がある。また、文学的な文章では、叙述に即して登場人物の心情の変化を的確に捉え、内容を読み取る力が必要である。
- ・論理的な文章では、根拠となる表現や文言に基づく客観的視点から文章の内容を正しく理解する力を身に付けさせる。
  - ・文学的な文章では、比喻表現などの意味するところをきちんと押さえながら、登場人物の心情の変化を的確に把握する方法を身に付けさせる。
  - ・直感に頼らず、論理的に正答を導き出す姿勢と力を育成する。

#### <古典>

- ③古典に親しみ学ぼうとする意欲を高め、生徒が主体的に文章を読み進められるように授業展開を工夫する必要がある。また、基礎的・基本的な知識を定着させ、文章を正確に読み解く力につながるような授業内容を意識し展開をする必要がある。
- ・基本的な語句、文法事項、句法などの基礎的な知識を身に付けさせるとともに、それらを基にして、文章の内容を正確に読み解く力を育成する。
  - ・登場人物の関係性や心情を文脈から把握し、的確に読み取る力を身に付けさせる。
  - ・適宜現代語訳を活用したり、古典的な習俗の説明をするなどして、古典そのものの面白さに触れられる工夫をする。
  - ・教員主導の授業にならないよう、グループ学習やペア学習、音読・暗唱など、生徒たちが主体的に古典を読み味わうことのできる活動を授業に取り入れる。

## 数学

### ◎分析と課題

(◇・・・相当数の生徒ができています。 ◆・・・課題がある。)

◇基礎・基本の中でも、整式の計算、分母の有理化、二次方程式や三角比の値を求める問題の正答率が比較的高く、一定の定着が見られる。

◆二次関数のグラフや図形と計量の問題の正答率が低く、複数の基本事項を組み合わせで解く問題や、文章や表を読み取って解く問題の正答率が低い傾向が見られる。

⇒ 課題 1：基礎・基本の定着が、知識の習得と技能の習熟に偏っており、それらを活用して自ら考える力が不十分である。

◆様々な視点から問題を考察し、必要とする複数の条件を見つけたり、場合分けをして課題解決をする問題の正答率が低い。

⇒ 課題 2：問題の本質が何かを見つけたり、複数の視点から問題を考察する力が不足している。

◇単に一つの公式や定理を適用するような、知識・技能の習得をみる問題の正答率は高い。

◆問題文の内容を読み取り、その問題を解くために必要な公式や定理を、見通しを持って選択したり、与えられた条件から立式することができていない。

⇒ 課題 3：習得した知識や技能を具体的な事象に活用し、問題解決に必要な公式や定理を見通しを持って選択する力、与えられた条件から立式する力、得られた結果について吟味する力が不十分である。

◆与えられた数値や式を用いて計算することはできるが、グラフや数直線を用いて場合分けをしたり、解答の吟味をしたりすることができていない。

◆グラフや図、表からの情報を正しく読み取り、数式を用いて適切に表現したり、活用したりすることができていない。

⇒ 課題 4：グラフや数直線を用いて問題を解決していく力や、必要な情報をグラフや図、表から正しく読み取る力と、読み取ったことを表現・活用する力が不足している。



### ◎改善の方向

①基礎的・基本的な知識・技能の定着とともに、既習事項との関連性についても触れ、生徒自身が体系的な理解を求められるような工夫をする。

- ・公式や定理の成り立ちや既習事項との関連を意識させて考えさせるなど、生徒自身が考える機会を与える授業の組み立てを行う。
- ・解法についても、手順の暗記に留まるのではなく、様々な形態の問題を扱い、数学的な表現の仕方についても考えさせる機会を設ける。

②数学を活用することのよさに気づき、様々な視点で問題を考察できるよう課題学習を活用しながら、生徒が主体的に学習活動を行えるように工夫する。

- ・具体的な事象を取り入れ、イメージを持ちながら既習事項を活用し、問題を解決し、数学のよさを認識できるような工夫をする。
- ・学習場面では、ペア学習やグループ学習などを積極的に取り入れ、生徒同士で議論し検討させる学び合いの場面を設け、多面的に考察する力を育てる。

③問題解決のために必要な数学的知識・技能の種類と解法の手順について、生徒自身に考えさせる機会を設けたり、また、得られた結果が、与えられた条件に合致しているかどうか、その根拠を説明させる場面を増やすことで、数学的な表現力を育成する

- ・公式や定理の活用を教員が説明するだけではなく、「この問題解決にはどのような手段を用いればよいのか」ということを生徒に考えさせたり、表現させたりする機会を設ける。
- ・条件を適切に用いて立式しているか、得られた結果が条件に合致しているか、自らの思考過程を振り返らせ、発表させる場面を増やし、事象を数学的に考察し表現する力を育成する。

④グラフや数直線を用いた解決方法を意識させる。また、グラフや図、表から必要な情報を読み取り、数式で表現させるなど、事象を様々な方向から捉え、表現・活用する力を育成する。

- ・グラフや数直線、図の有用性を認識させ、そこから読み取れる情報を数式で表現するなど、様々な方向から事象にアプローチする機会を設け、多面的に事象を捉えることで、本質的に理解できるよう指導を工夫する。
- ・事象を具体化し、視覚的に捉えさせるために ICT を効果的に活用し、生徒が事象の変化や動きについて実感を伴って把握し、考察を深めていくことができるよう指導を工夫する。

## 英語

### ◎分析と課題

(◇…相当数の生徒ができている ◆…課題がある)

- ◇基本的な表現を聞き取り、その内容を理解する力について、正答率が高い。
- ◆提案や依頼をされたときの応答などの英文を聞き取り、それに適切に応答することができない。
- ◆まとまりのある英語を聞く中で、全体の流れを踏まえ、状況や場面を把握する力が不足している。

⇒ 課題 1：会話の流れに沿って適切に応答する力や、まとまりのある英語について状況や場面などのポイントを押さえながら概要を把握する力が不足している。

- ◇話すことを中心とした言語活動の中でよく使用される語彙や表現に関して定着が見られる。
- ◆高等学校で学習する語彙・熟語・文法を正しく活用できていない分野がある。
- ◆特に仮定法、時を表す副詞節や形式目的語など、正答率が低く、定着が不十分である。
- ◆形容詞と名詞のつながりや基本構文など、英語の文構造の理解が身に付いていない。

⇒ 課題 2：高校段階で学習する文法事項や語彙などに関する知識や運用が正しく身に付いていない。

- ◇広告から金額のような比較的目につきやすい情報を探し出し、正答に導くことができる。
- ◆複数の情報を、整理しながら読み取ることができない。
- ◆基本的な語彙の理解が十分でないため、必要な情報を読み取ることができない。
- ◆別の表現に言い換えられた英文と元の情報とを結び付けることができない。

⇒ 課題 3：全体像をつかむとともに、目的に応じて必要な情報を探し出す力が不足している。

- ◆限られた時間の中でまとまった量の英文を読むことに慣れていない。
- ◆各段落の概要を理解し、段落のつながりを留意しながら読むなどの、英文全体の流れを捉える力が不足している。

⇒ 課題 4：英文全体の流れを理解しながら概要や要点を捉える力が不足している。

### ◎改善の方向



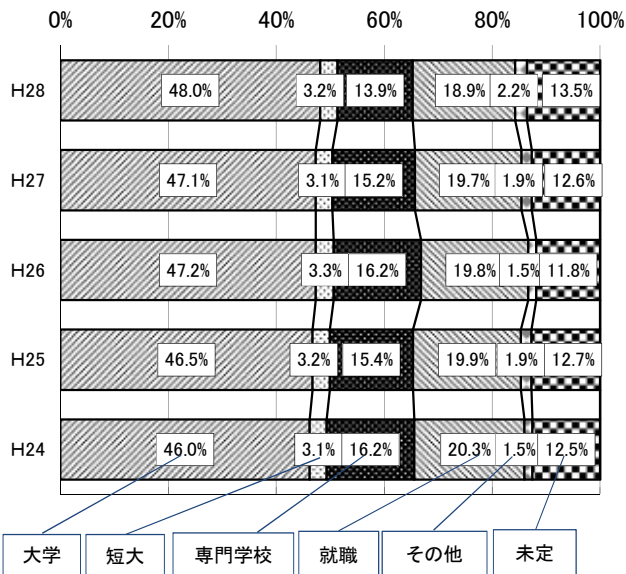
- ①授業で教師や他の生徒の発話や様々な音声教材を聞いて、情報や考えなどを的確に理解できるようにするとともに、教師や生徒同士の英語による言語活動の機会を多く持つ。
  - ・教師の発問に答えたり、生徒同士の言語活動を多く取り入れたりすることで、学習した内容の定着を図る必要がある。
  - ・必要に応じて、教師がわかりやすい表現や、別の表現に言い換えるなどの工夫をする。
- ②授業中の様々な場面で英語の使用機会を作り、言語活動と関連付けながら運用を通して文法事項の定着を図る。
  - ・新出の文法事項に関しては、多様な場面を設定し言語活動の機会を作り、英語を繰り返し使用することで文法事項の定着を図る。
  - ・話したり書いたりする表現活動を通して、英語特有の文構造の定着を図る。
- ③身近な生活の場面で使用されている多様な英語素材を用い、必要な情報を的確に検索したり、読み取った内容を適切に伝えたりする力を育む。
  - ・教科書教材に加え、新聞、パンフレット、ウェブサイトや広告など、様々な素材を用いて、多様な形式や表現に触れさせるとともに、適切な情報の読み取りに慣れさせる。
  - ・様々な形式の素材から、必要な情報を的確に探し出す力を身に付けさせる。読み取った内容を伝える活動を通して、言い換えの表現の理解を図ることができるようにする。
- ④読む活動を通して新たな知識を身に付け、様々な英文を読み異なった価値観を理解することで英文を読む楽しさに気付かせ、自ら意欲的に英文を読む姿勢を育む。
  - ・教科書教材以外にも多様な英文を読む機会を増やし、まとまった量の英文を読むことに慣れさせる。
  - ・ディスコースマーカーの働きを意識させるなど、段落のつながりに留意しながら読んだり、概要や要点を把握させるなど、目的に応じた読み方を身に付けさせる。
  - ・生徒の理解を深めるための発問を工夫する。
  - ・読んだ内容について、大まかな内容を述べたり、簡単な感想や意見を書いたりするなどの活動を通して、表現する力を育む。



### 3 学習状況に関する調査

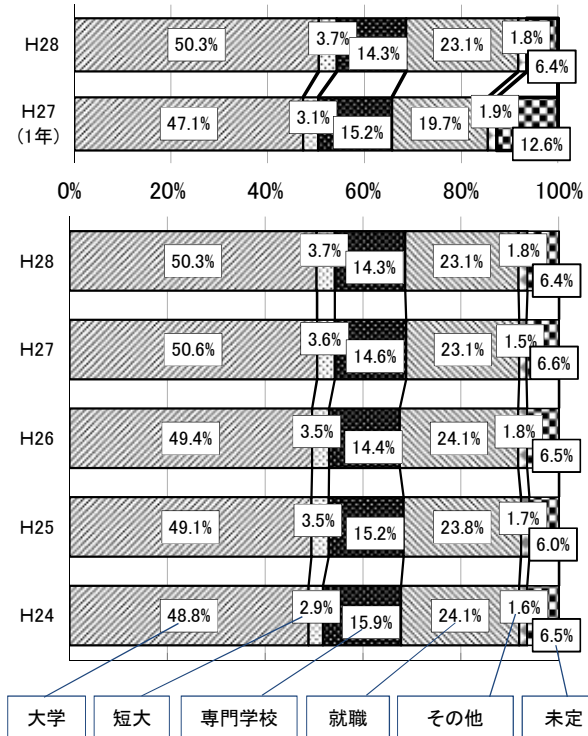
#### (1) 高校卒業後の進路希望【Q1】

図1 進路希望（1年生）



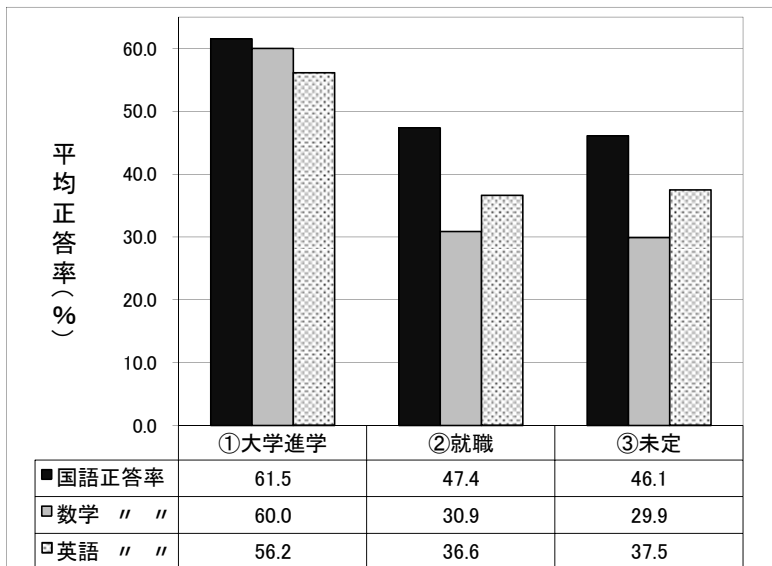
- 4年制大学と短大への進学希望者は、一昨年、昨年に引き続き50%を超えた。
- 進路望未定者はやや増加。

図2 進路希望（2年生）



- 昨年に引き続き、4年制大学への進学希望者が50%を超えた。
- 進路希望未定者は、1年時からほぼ半減。

図3 進路希望別正答率

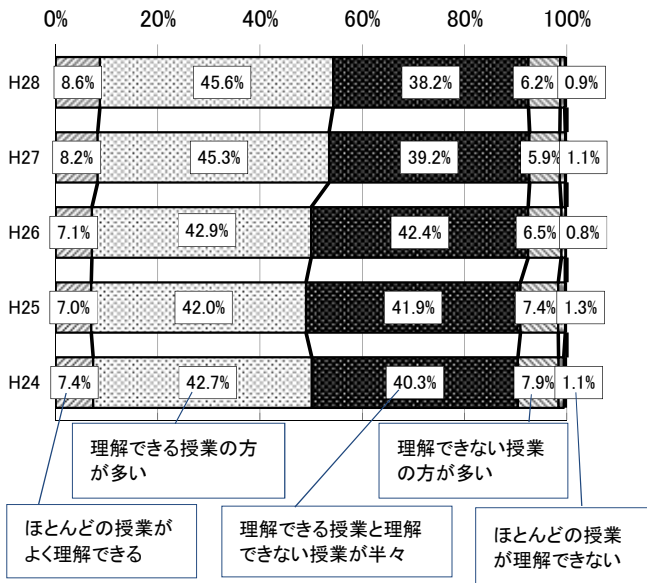


- ① 大学進学  
国公立の四年制大学への進学を希望している生徒
- ② 就職  
民間及び公務員への就職を希望している生徒
- ③ 未定

◎ 大学への進学希望者とそれ以外の進路希望者で、各教科の正答率に差が出た。特に、就職希望者及び進路希望未定者の数学の正答率は30%前後であり、英語とともに大きく差が出た。

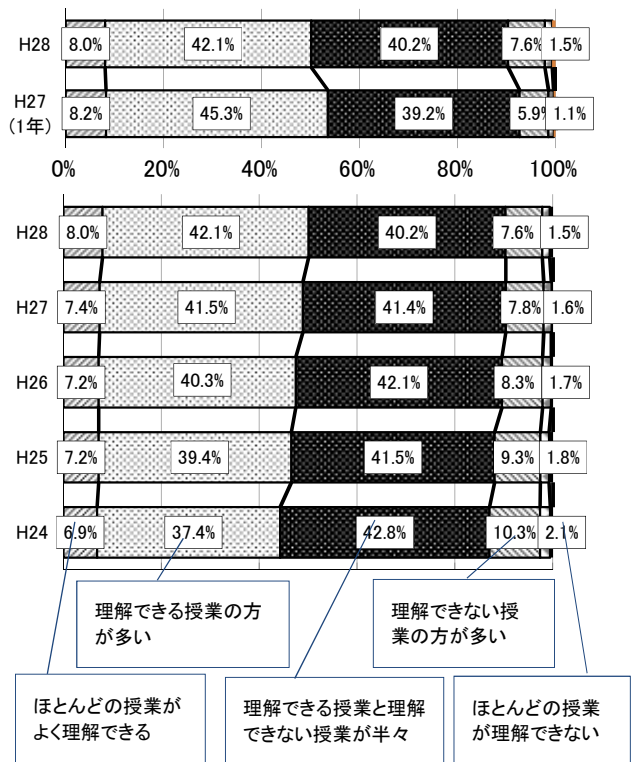
(2) 授業理解度(【Q4】), 家庭学習のしかた(【Q13】)

図4 授業理解度(1年生)



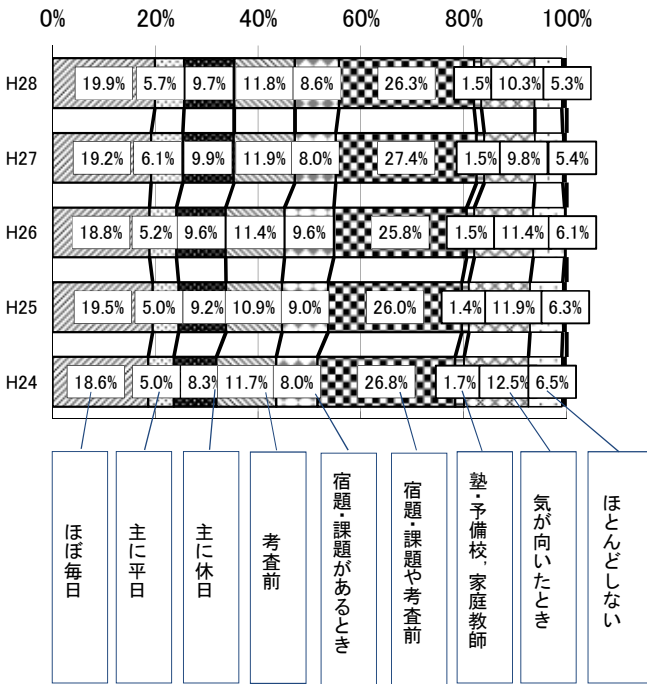
○ 授業が概ね理解できている生徒の割合がやや増加。  
○ 理解できていない生徒の割合はやや減少。

図5 授業理解度(2年生)



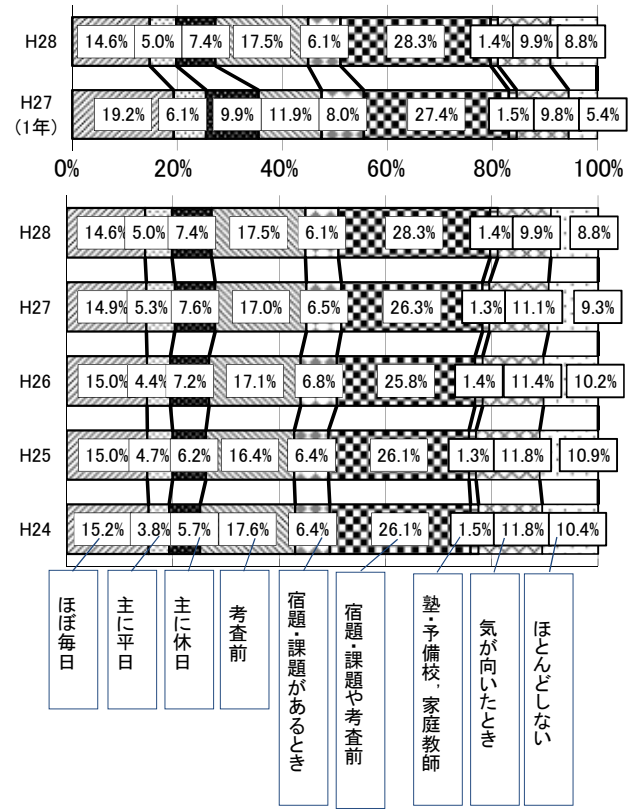
○ 授業が概ね理解できている生徒の割合は前年よりもやや増加。  
○ 1年時との比較では減少。

図6 家庭学習のしかた(1年生)



○ 「ほぼ毎日」の生徒は増加し、「ほとんどしない」の生徒は継続して減少。

図7 家庭学習のしかた(2年生)



○ 1年時より「ほぼ毎日」の生徒は減少し、「ほとんどしない」の生徒は増加。  
○ 宿題が出たときや検査前に学習する生徒が約半数。

### (3) 授業における学習目標の提示や振り返り【Q6】

図8 授業での学習目標の提示や振り返り（1年生）

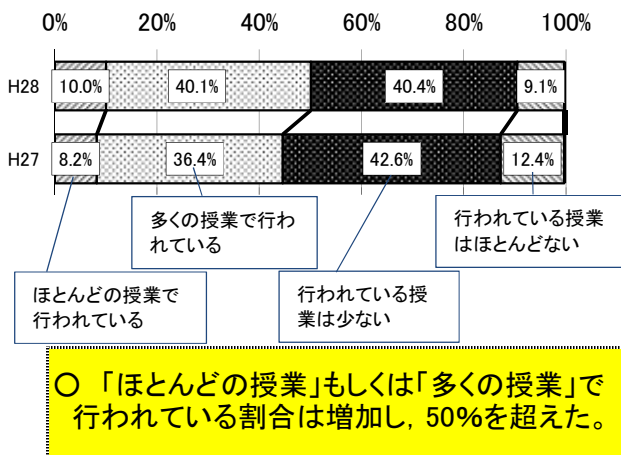


図9 授業での学習目標の提示や振り返り（2年生）

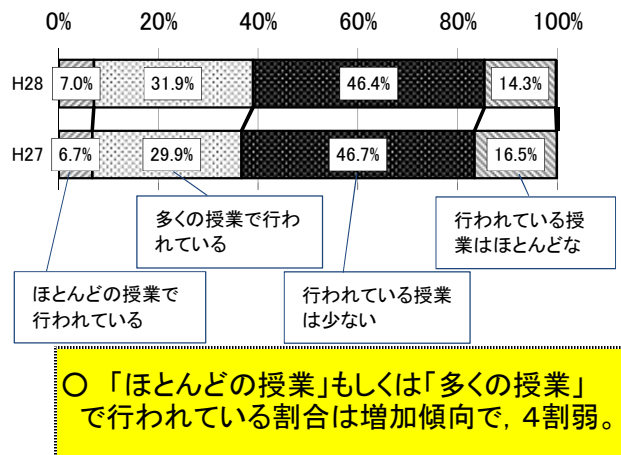
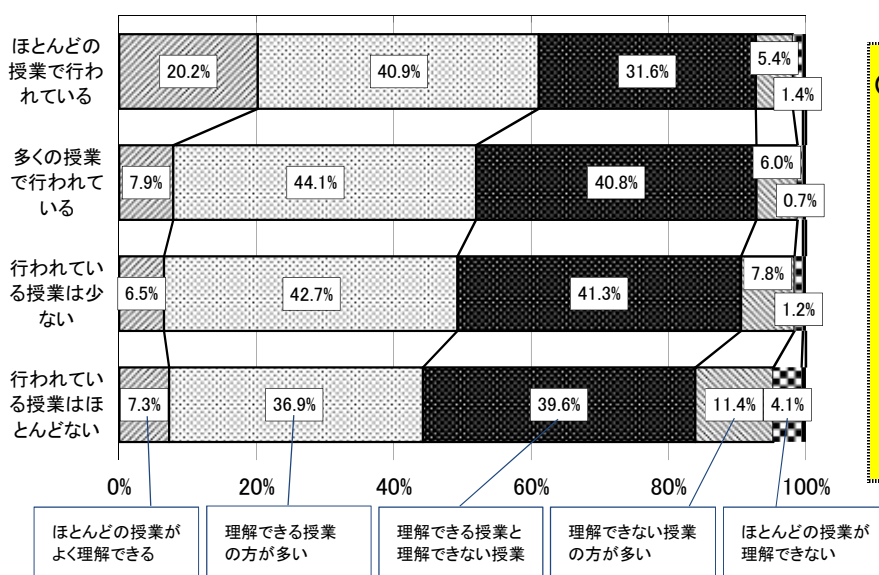
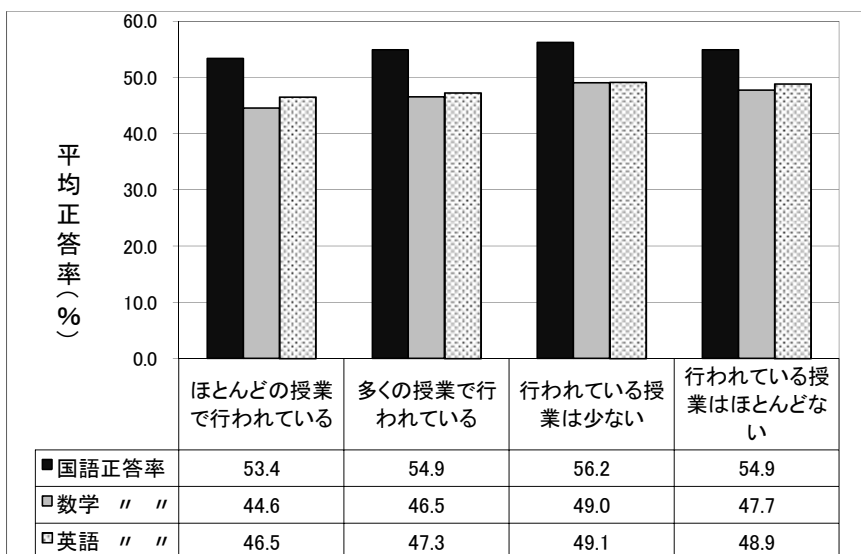


図10 授業での学習目標の提示や振り返りと授業理解



○ 学習目標の提示や振り返りが行われている授業では、生徒の授業理解度が高い傾向が見られる。  
H28年度全国学力・学習状況調査(中3)の県内集計において、学習目標の提示については84%、振り返りについては63%の生徒が行われていると回答している。高校においても今後の指導の改善について、さらなる検討が必要。

図11 授業での学習目標の提示や振り返りと正答率



○ 学習目標の提示や振り返りと正答率の間には明確な相関が見られない。図10の授業理解度が正答率に反映されておらず、提示の仕方や振り返りの在り方について検討が必要。

(4) 授業中に自分の考えを发表或し、ペアや小グループで話し合う時間【Q7】

図12 授業中の意見発表や話し合い(1年生)

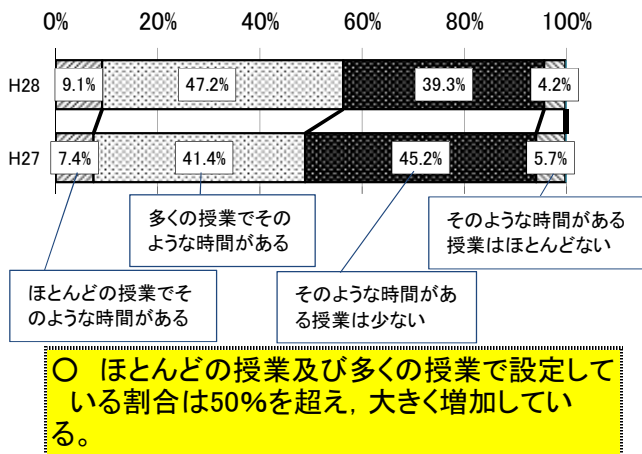


図13 授業中の意見発表や話し合い(2年生)

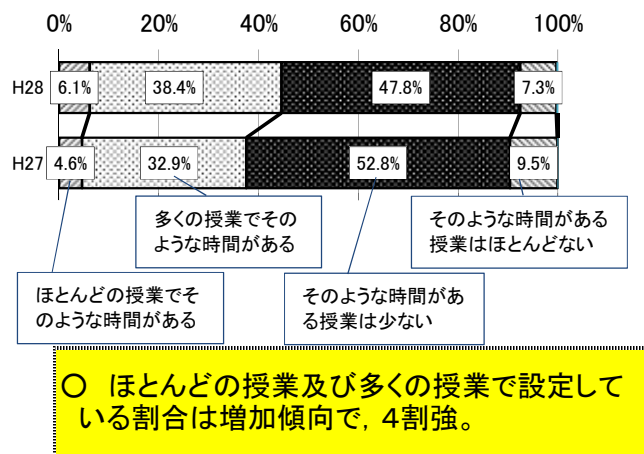
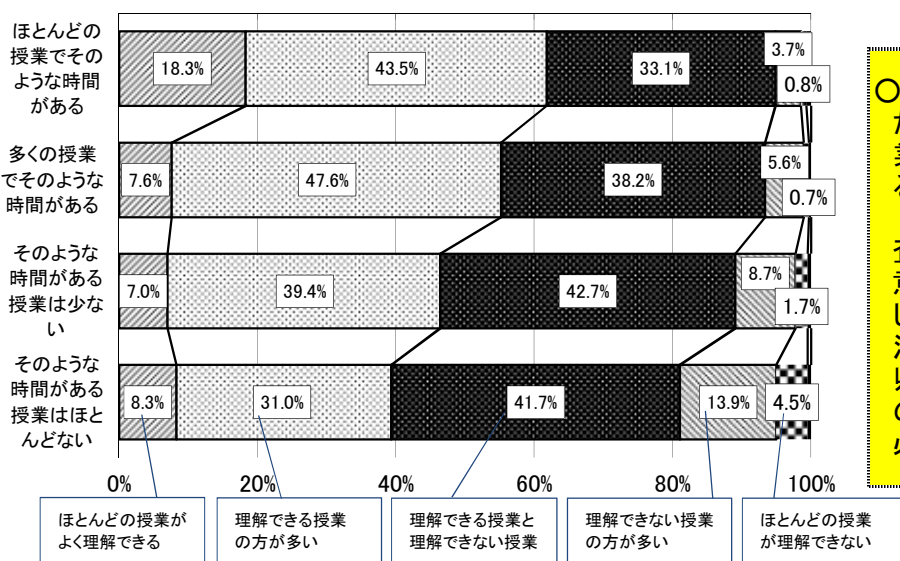
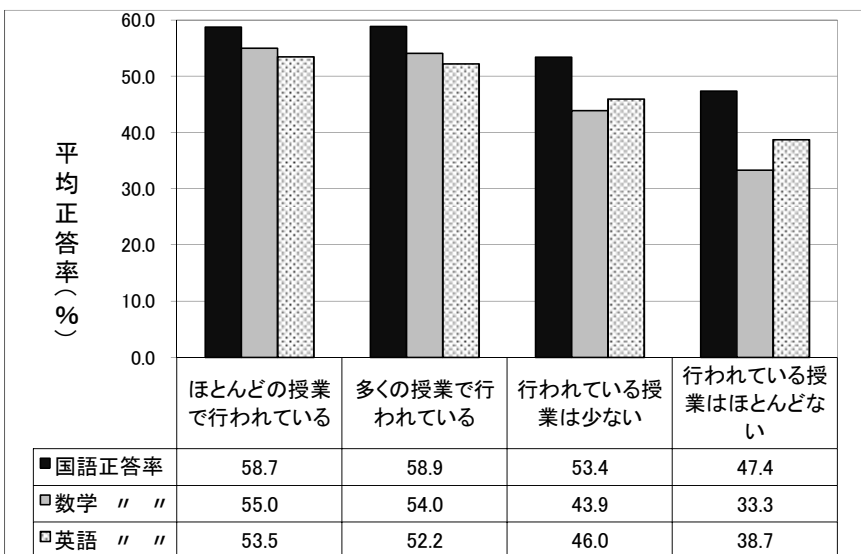


図14 授業中の意見発表や話し合いと授業理解



○ 意見発表や話し合う時間が持たれている授業では、生徒の授業理解度が高い傾向が見られる。  
H28年度全国学力・学習状況調査(中3)において、普段の授業で意見発表をする機会があると回答した県内の生徒は85%、話し合う活動がよく行われていると回答した県内の生徒は80%以上おり、評価の在り方とともに、高校でも検討が必要。

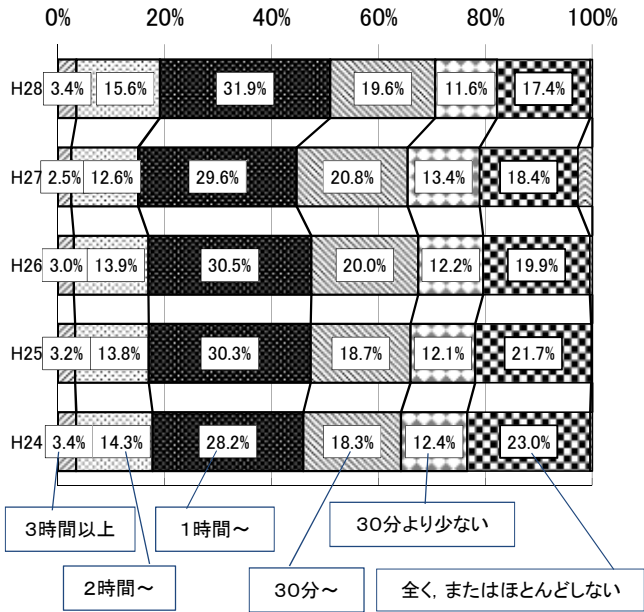
図15 授業中の意見発表や話し合いと正答率



○ 授業で、意見発表や話し合いを行っているると正答率が高い傾向が見られる。「ほとんどの授業で行われている」と回答したグループと「行われている授業がほとんどない」と回答したグループとの比較では、特に数学と英語で差が出た。

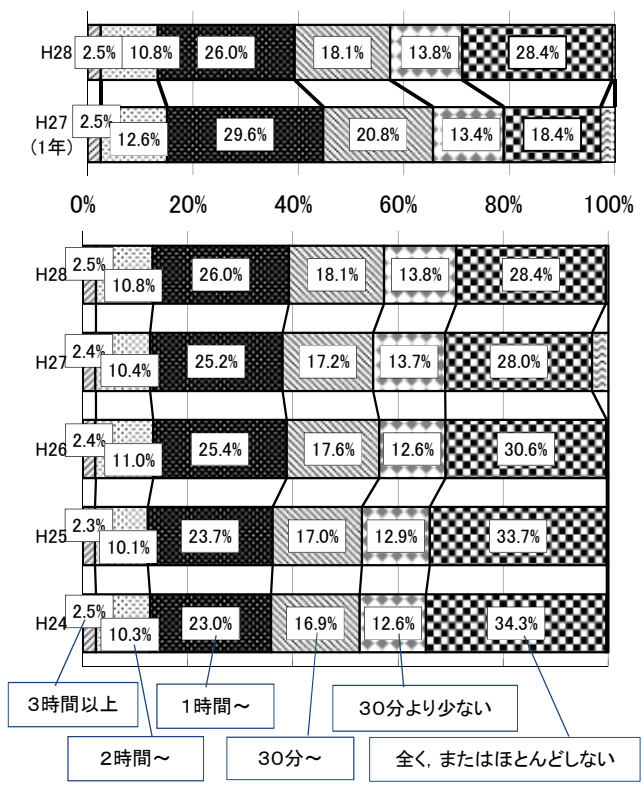
(5) 平日の学習時間(【Q10】)

図16 平日の家庭学習時間(1年生)



→ ○ 2時間以上の割合は増加。  
○ 「全く、またはほとんどしない」割合は減少。

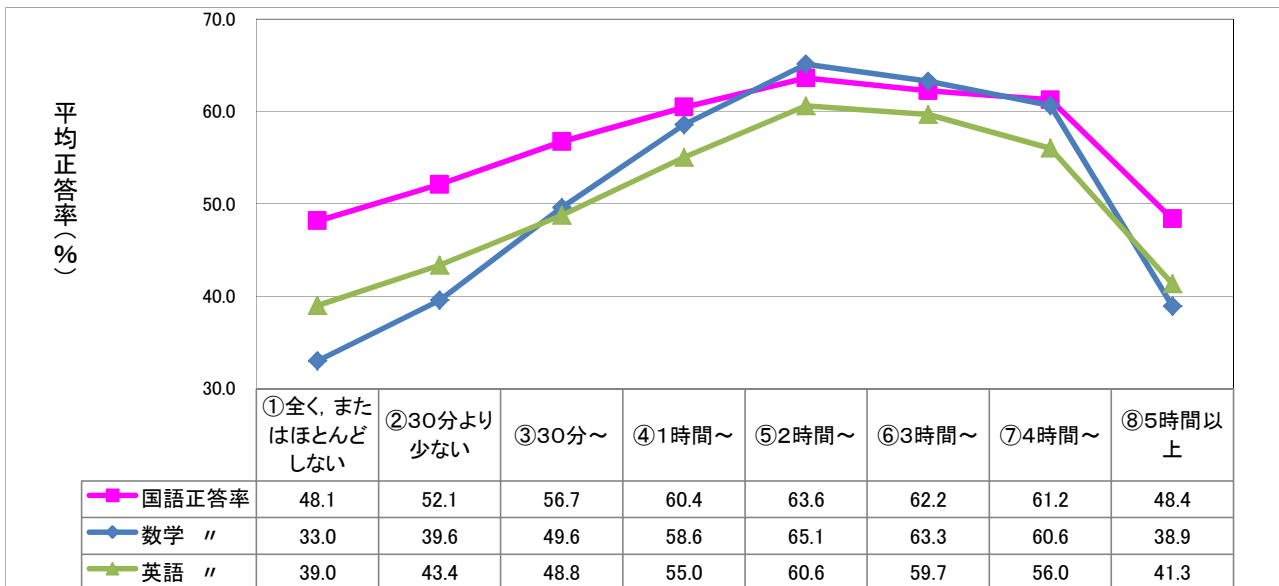
図17 平日の家庭学習時間(2年生)



→ ○ 「全く、またはほとんどしない」割合はやや増加。  
○ 1年時よりも学習時間は減少。

図18 家庭学習時間と正答率

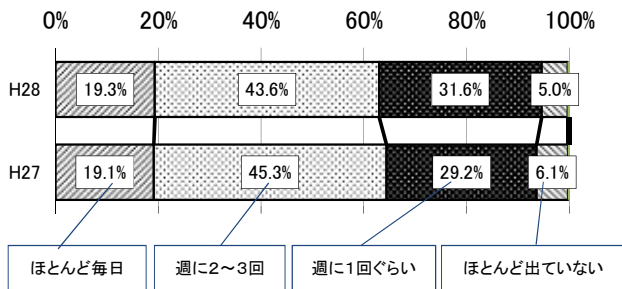
【Q11】 平日に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか



→ ◎ 平日2~3時間の家庭学習時間を確保し、集中して学習に取り組むことが内容の定着に効果的であることがわかる。

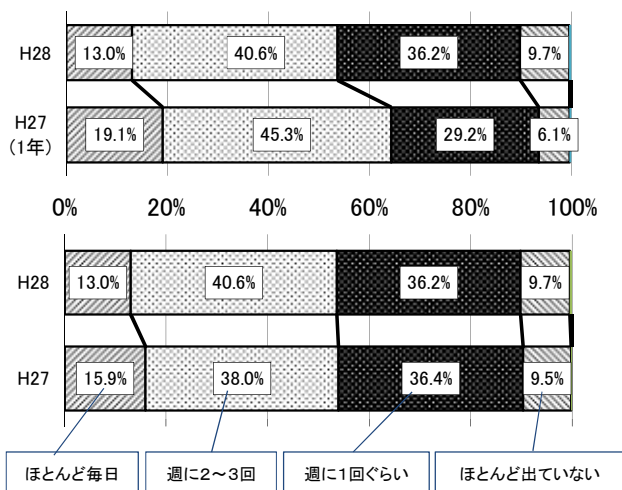
## (6) 宿題・課題の頻度【Q8】

図19 宿題・課題が課される頻度（1年生）



→ ○ 「ほとんど毎日」がほぼ同じ, 「週に2~3回」が減少。

図20 宿題・課題が課される頻度（2年生）



→ ○ 宿題や課題が課される頻度は前年よりもやや減少し, 1年時よりは大幅に減少。

図21 宿題・課題が課される頻度と平日の家庭学習時間（1年生）

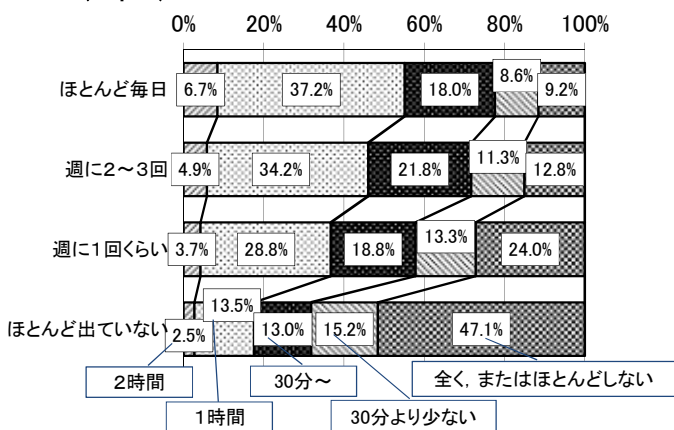
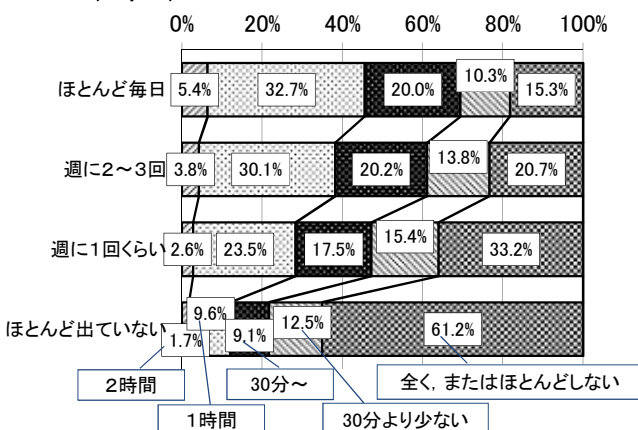


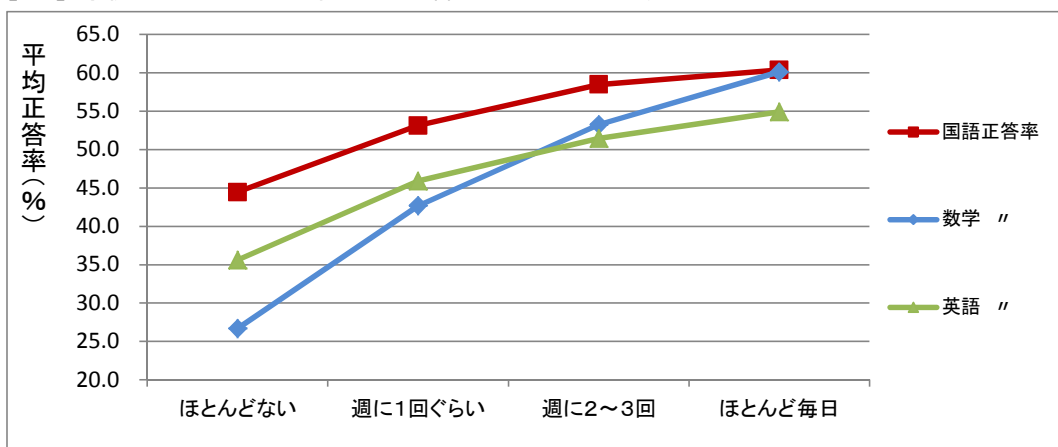
図22 宿題・課題が課される頻度と平日の家庭学習時間（2年生）



○ 宿題・課題が課される頻度と家庭学習時間には相関が見られる。宿題・課題が課される頻度の減少が, 家庭学習時間の減少の一因となっており, 宿題・課題が課されていない日にも計画的に学習に取り組ませたい。

図23 宿題・課題の頻度と正答率

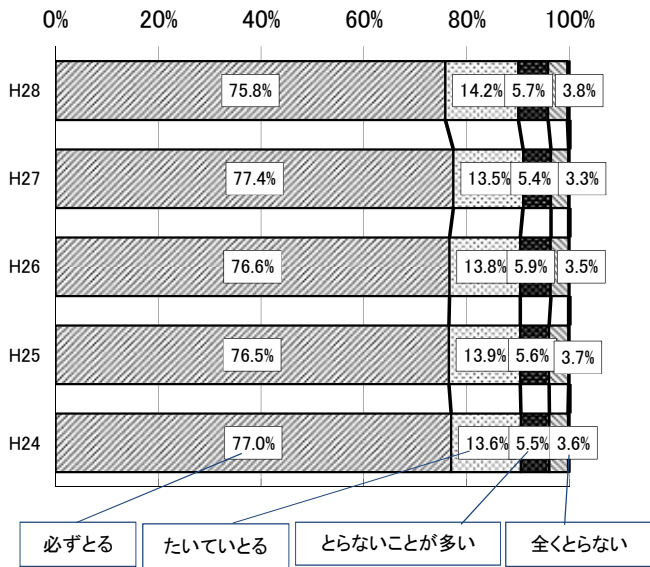
【Q8】 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか



◎ 宿題や課題を定期的に課して取り組ませることが, 学習内容や学習習慣の定着につながっている。  
◎ 定期的に, 小テストや確認テストを実施することにも同様の効果が期待できる。

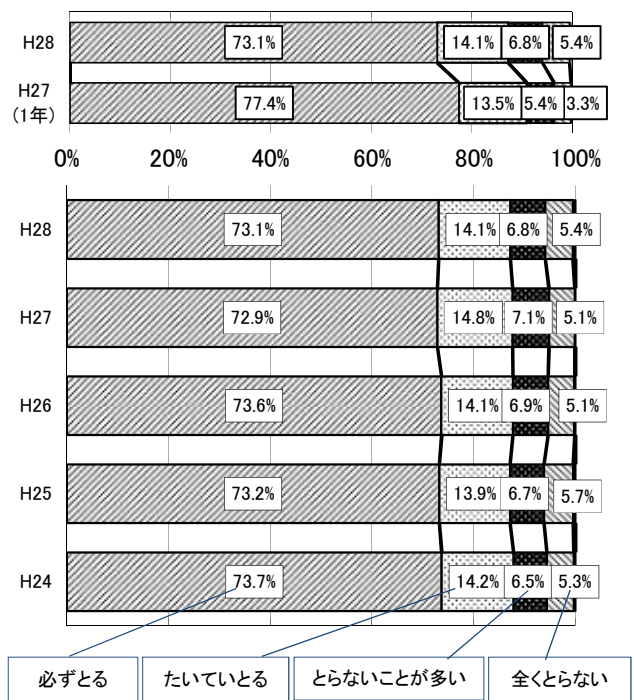
(7) 朝食摂取の習慣(【Q15】)

図24 朝食摂取習慣(1年生)



→ ○ 「必ずとる」または「たいていとる」生徒の割合は9割。  
○ 「全くとらない」生徒の割合はやや増加。

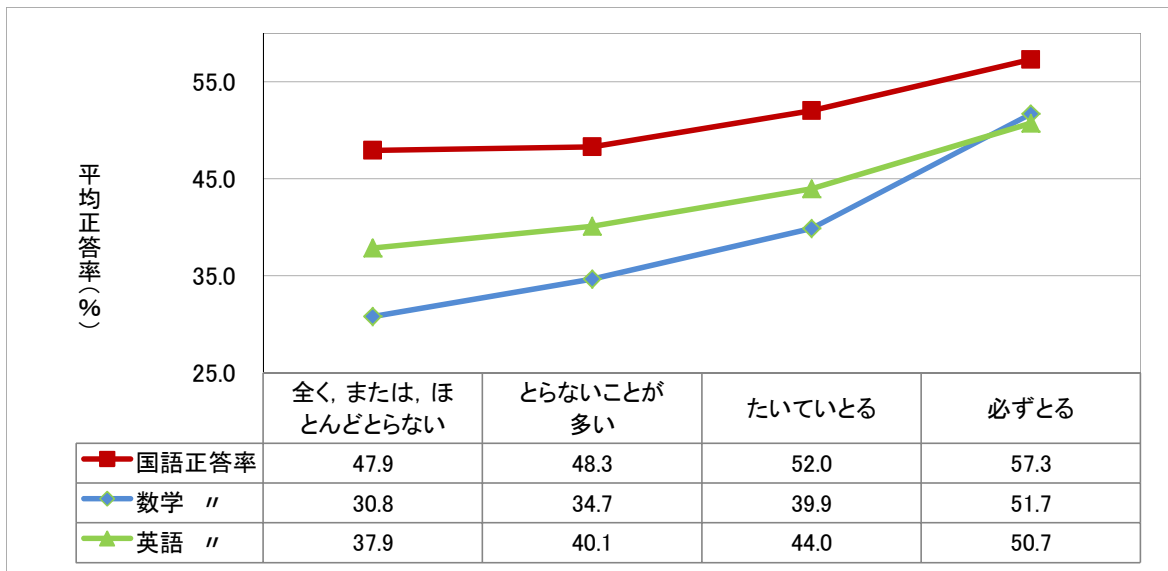
図25 朝食摂取習慣(2年生)



→ ○ 朝食をきちんと食べる生徒が1年時より減少。  
○ 朝食摂取習慣と学習成果の関係にも注意。

図26 朝食摂取の習慣と正答率

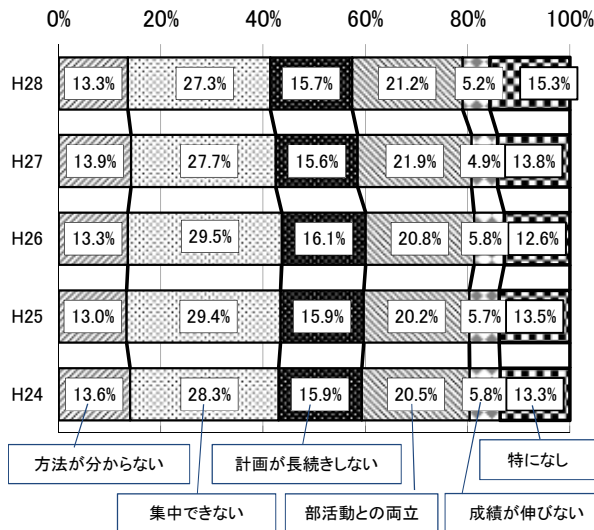
【Q15】 学校に行く前に朝食をとりますか



※ 朝食と脳活動の関係 ~ご飯とおかずバランスよく~  
・脳が働くために「ご飯」が必要  
・脳(細胞)が成長するために「おかず」が必要

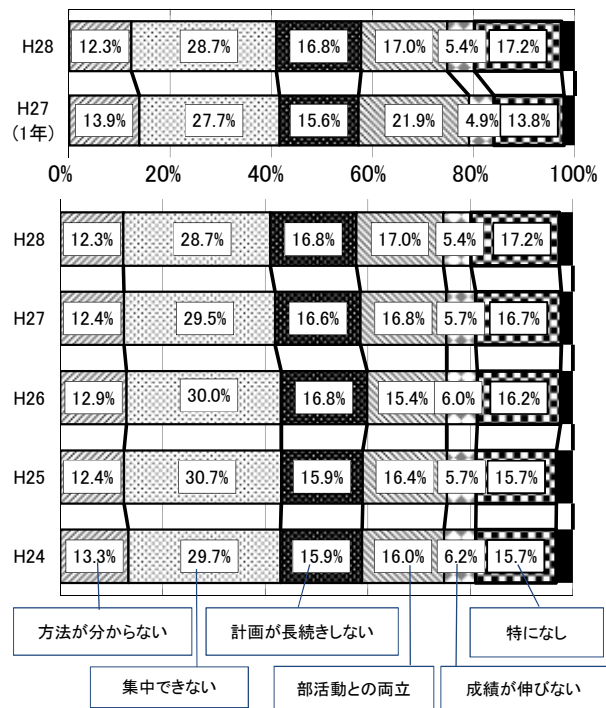
(8) 家庭学習をする上での悩みと平日の生活【Q14】、【Q16】

図27 家庭学習をする上での悩み（1年生）



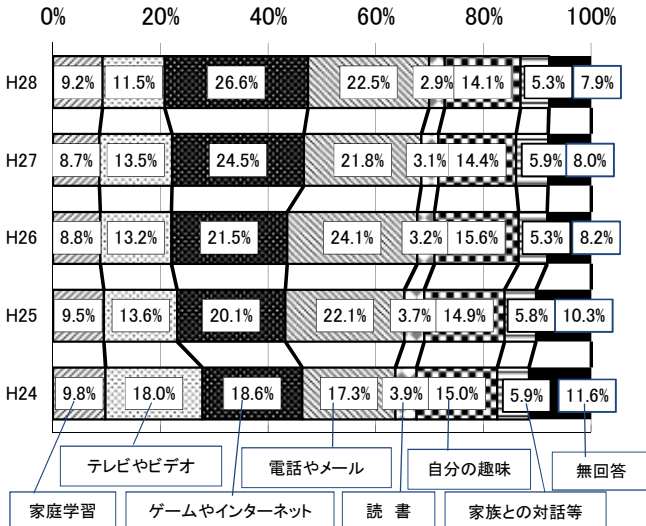
- 「集中できない」が最も多く、「計画が長続きしない」と合わせるとおよそ4割。
- 「部活動との両立」は2割程度。
- 「特になし」が増加。

図28 家庭学習をする上での悩み（2年生）



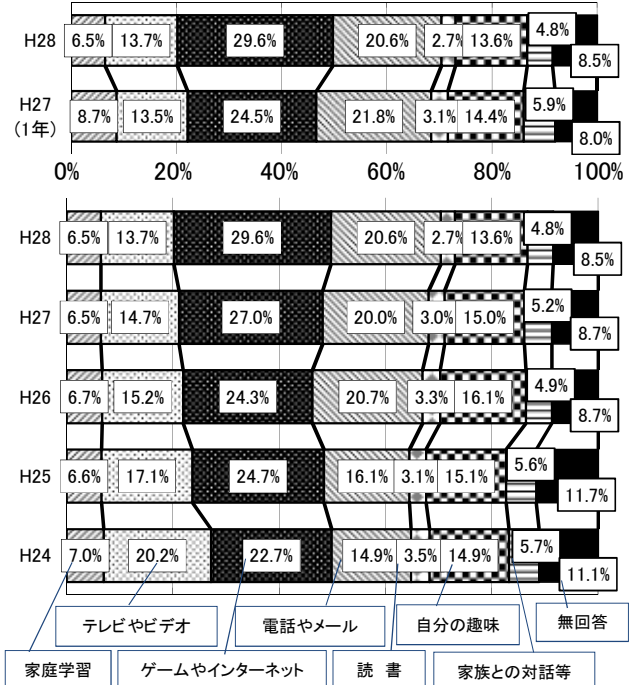
- 「集中できない」が、前年より減少。
- 「部活動との両立」は1年時より減少しているが、前年よりはやや増加。
- 「特になし」がやや増加。

図29 平日に最も時間をかけていること（1年生）



- 「ゲームやインターネット」が急増。
- 前年より「テレビやビデオ」が減少し、「家庭学習」は増加。

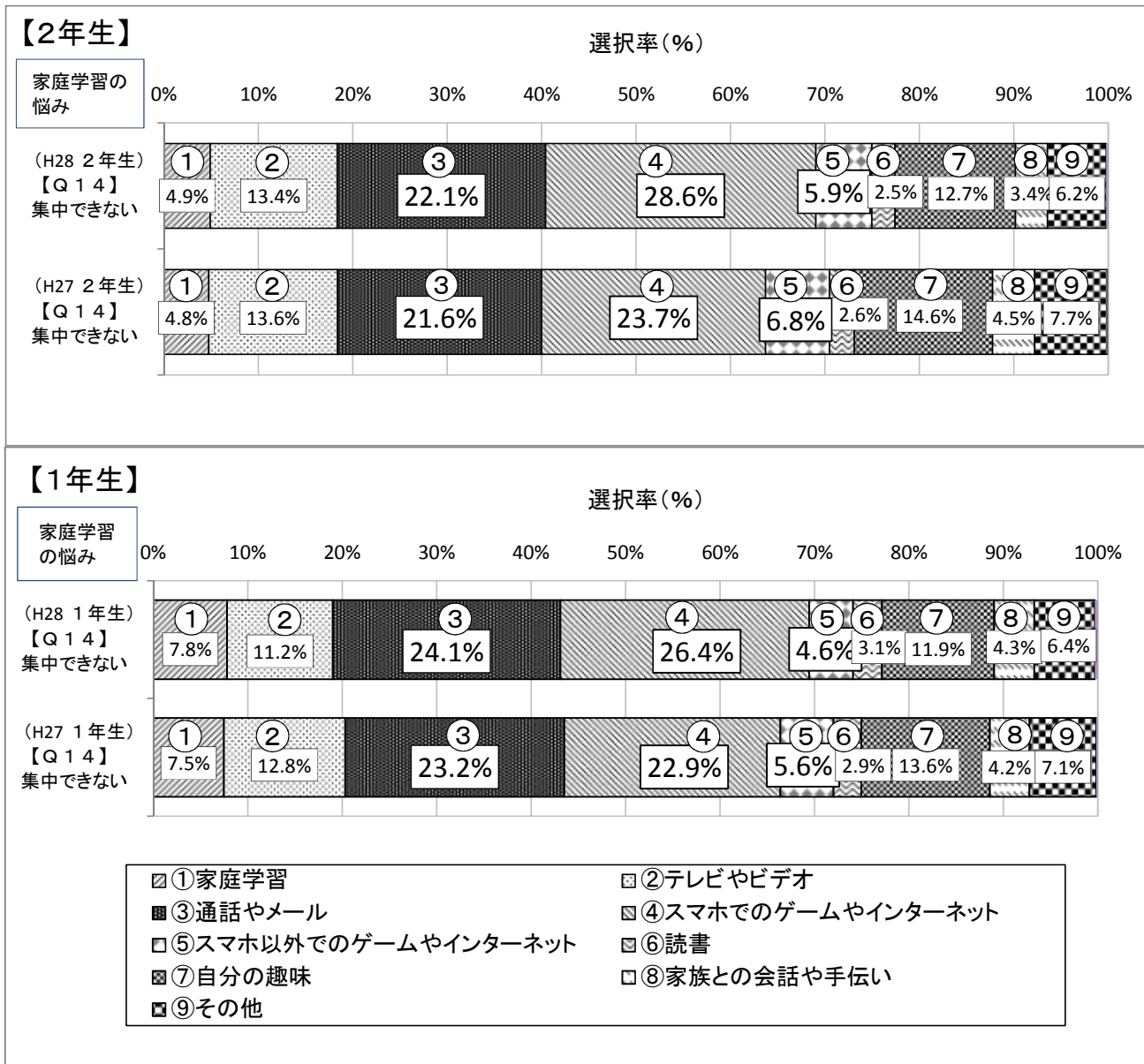
図30 平日に最も時間をかけていること（2年生）



- 「家庭学習」の割合が、1年時より減少。
- 「ゲームやインターネット」と「電話やメール」を合わせた割合は50%を超え、依存的傾向が懸念される。



図31 悩みが「集中できない」生徒の、平日の生活状況(【Q14】、【Q16】)

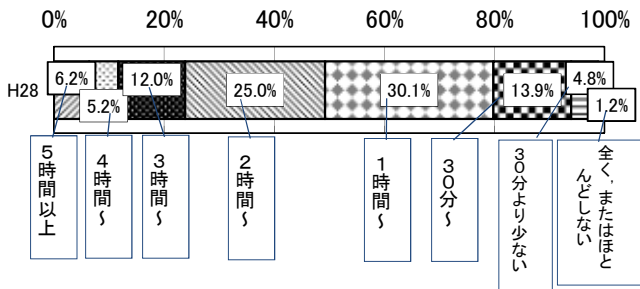


**ネット依存的な傾向が、家庭生活や学習活動に影響**

- ◎ 1年生、2年生とも、家庭学習をする上での悩みとして、「集中できない」と回答した生徒の割合は約3割、「計画が長続きしない」と合わせると4割超。
- ◎ そのうち、平日に、家庭で最も時間をかけていることが、スマートフォンや携帯電話での通話やメール、ゲームやインターネットと回答した生徒が約半数を占める。  
特にスマートフォンや携帯を用いたゲームやインターネット、動画サイトの視聴は急増している。
- ◎ ネット依存的な傾向が、家庭生活や学習活動に影響を及ぼしており、家庭とも連携した対策が必要。

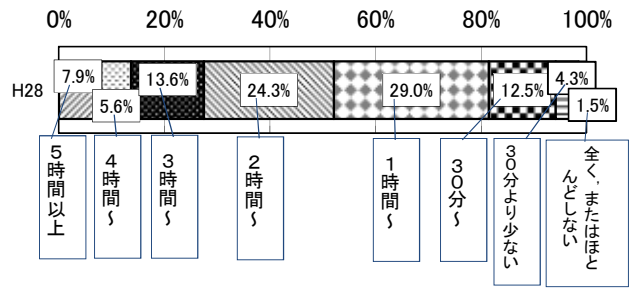
(9) スマートフォン等の使用時間と使用する場面(【Q17】、【Q29】)

図32 平日の使用時間(1年生)



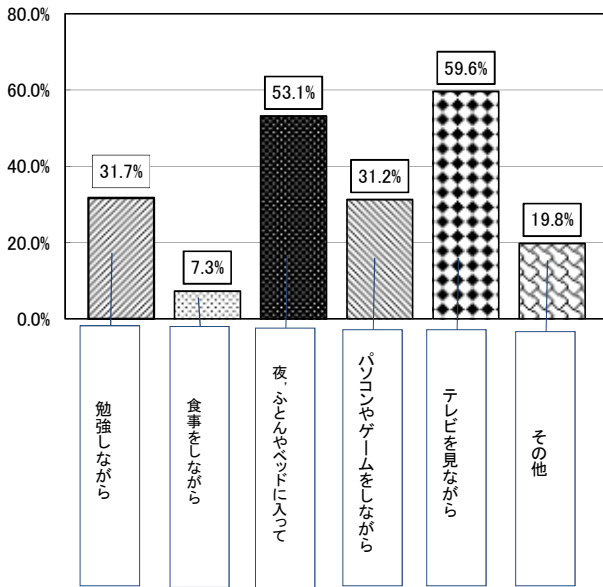
○ 約半数の生徒が1日2時間以上スマートフォンや携帯電話を使用している。  
 ○ 4時間以上使用している生徒は1割超。

図33 平日の使用時間(2年生)



○ 半数を超える生徒が1日2時間以上スマートフォンや携帯電話を使用している。

図34 使用する場面(1年生)



○ 「夜、ふとんやベッドに入ってから」が半数を超える。  
 ○ また、「テレビを見ながら」「勉強しながら」といった、「~しながら」の利用が多く、学習習慣や睡眠・生活習慣への影響が懸念される。

図35 使用する場面(2年生)

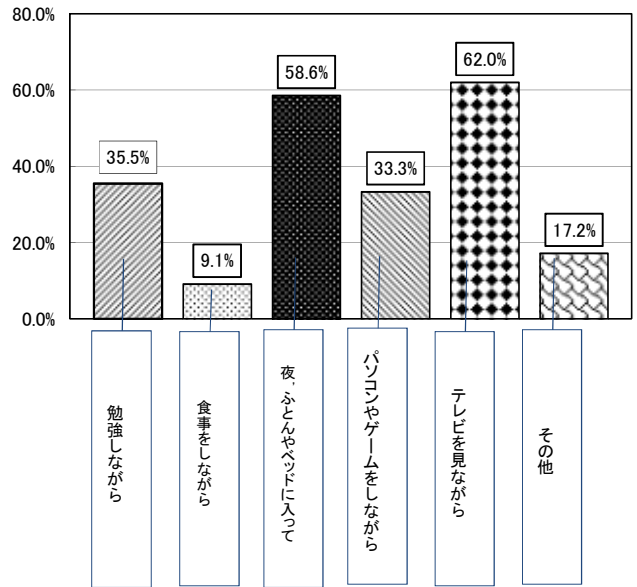


図36 使用時間と正答率

【Q17】 平日に、スマートフォンや携帯電話を勉強以外で使う時間はどのくらいですか

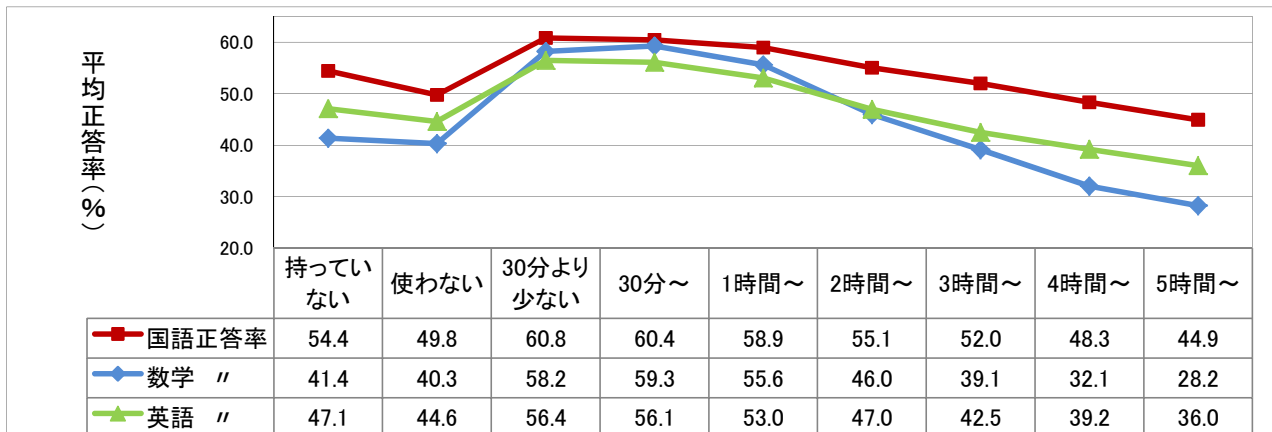
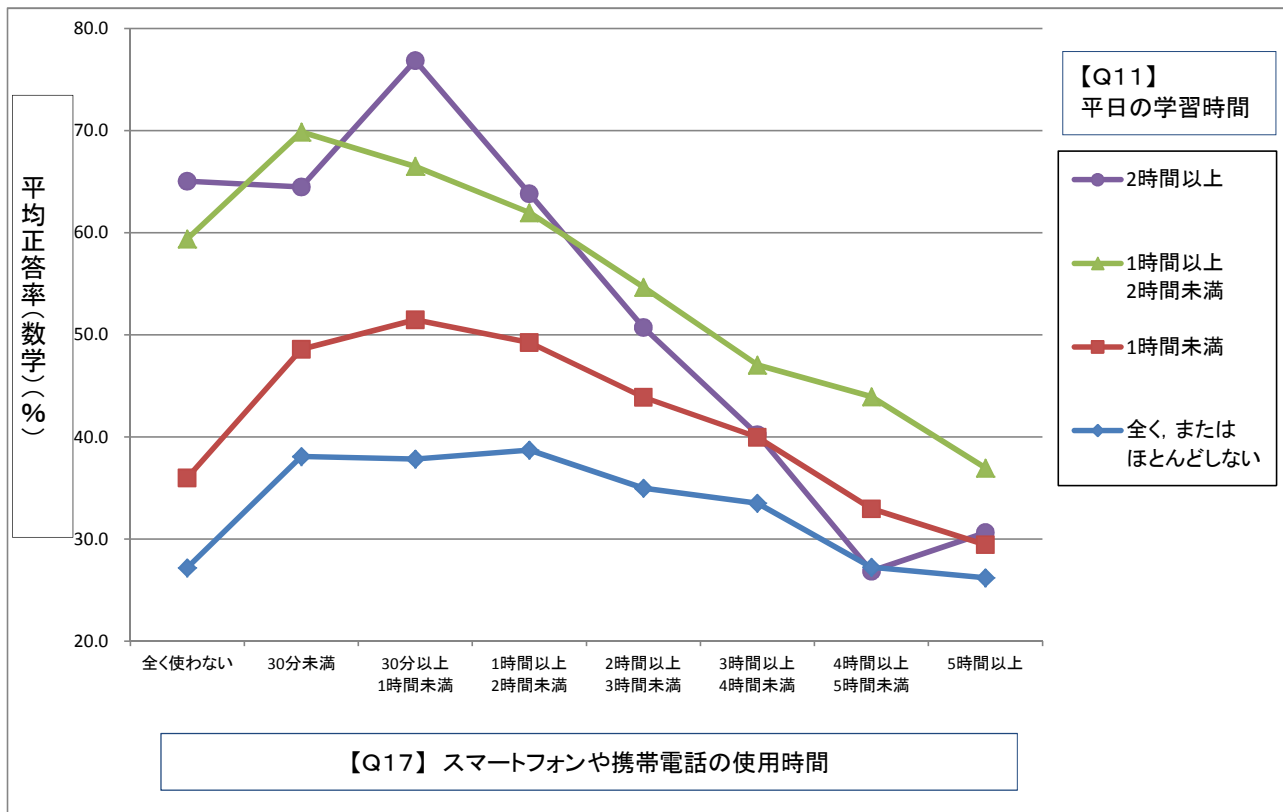


図37 学習時間とスマートフォン等使用時間, 正答率



## 「スマホは、勉強の効果を打ち消す！？」

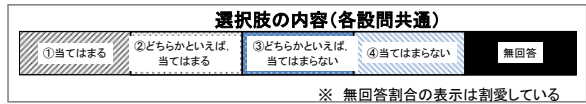
- 同じ学習時間の場合、スマートフォンや携帯電話の使用時間が長くなるほど正答率は低減しており、使用時間が学習効果に影響を与えていることがわかる。
- また、「学習時間」によらず、スマートフォン等の使用時間が、1時間を超えると正答率が低下している。

※学習時間と正答率の間には相関がみられるが、学習時間を確保していても、スマートフォン等の使用時間が長いとその効果が大きく減少する。学習に集中して取り組むことが大切である。

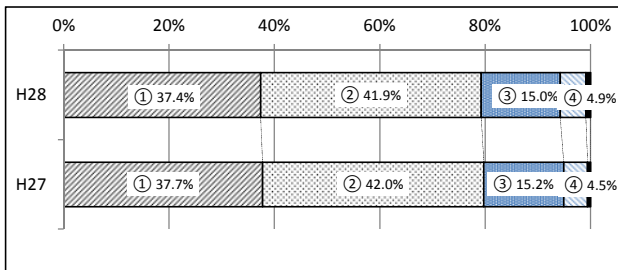
## 4 「震災後の心身の健康」、「志教育」等に関する調査

### (1) 震災後の心と体の安定について

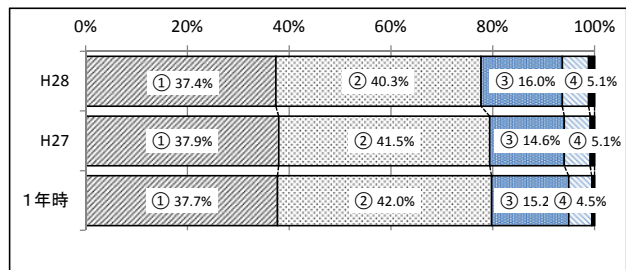
#### ア 毎日同じくらいの時刻に寝ている(生活習慣について)【Q32】



##### ① 【1年生】



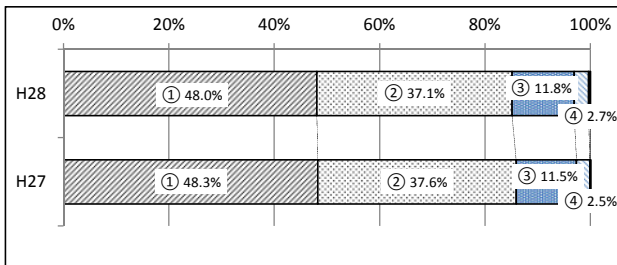
##### ② 【2年生】



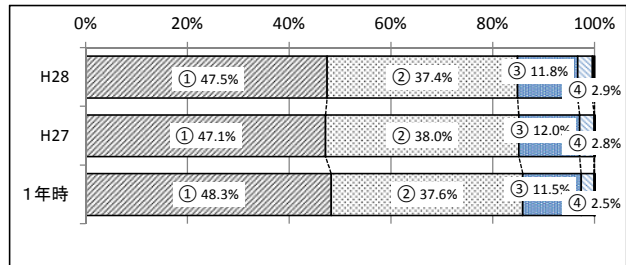
・睡眠の様子からは、生活習慣はほぼ安定している。就寝時間が安定しない生徒も20%程度いる。

#### イ 体調はよい(体調管理について)【Q33】

##### ① 【1年生】



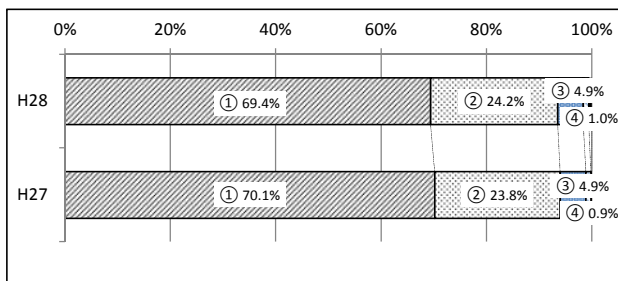
##### ② 【2年生】



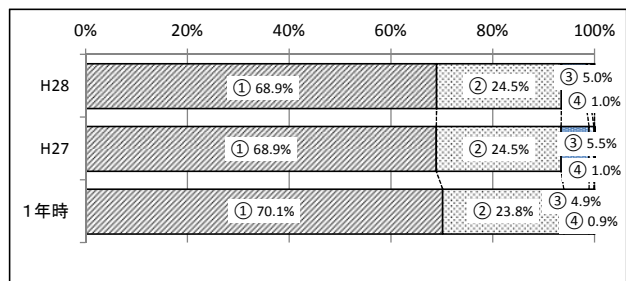
・体調管理は概ね良好である。体調管理がうまくいっていない生徒も15%程度いる。

#### ウ 食欲はある(食生活について)【Q35】

##### ① 【1年生】



##### ② 【2年生】

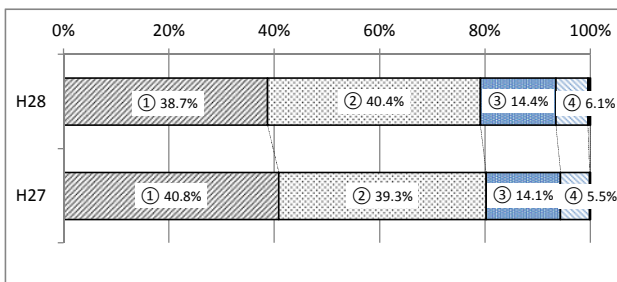


・ほとんどの生徒が食欲があると回答している。

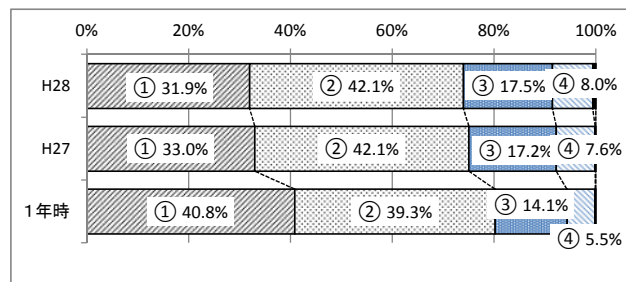
### (2) 震災後の学校生活について

#### ア 学校生活に充実感や満足感を感じている(学校生活について)【Q36】

##### ① 【1年生】



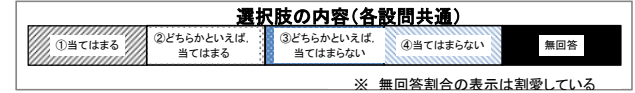
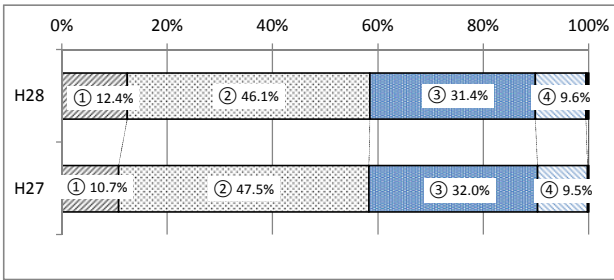
##### ② 【2年生】



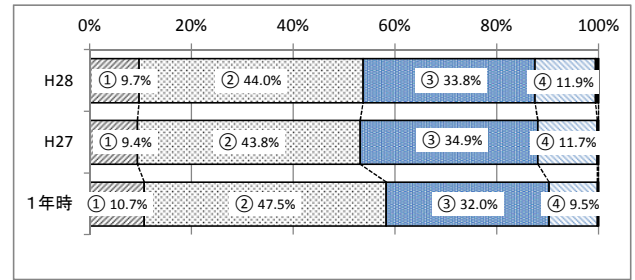
・学校生活に充実感や満足感を感じている生徒の割合は1年生ではおよそ8割。2年生では、1年時より減少。

イ 集中して勉強できている(勉強について)【Q43】

① 【1年生】



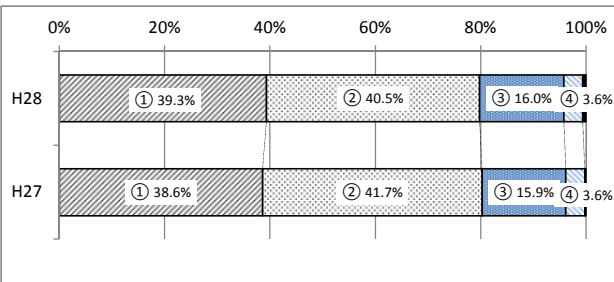
② 【2年生】



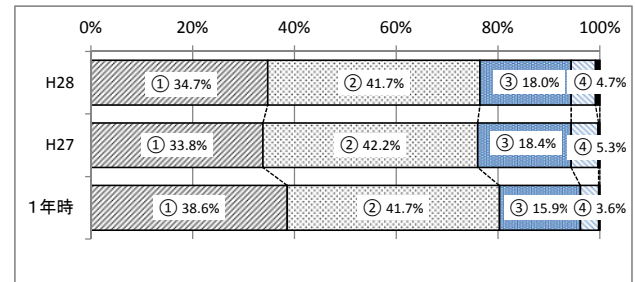
・集中して勉強できている生徒の割合は50%超で、前年度よりもやや増加。2年生では、1年時よりも減少。

ウ クラスや学校の行事等に積極的に取り組んでいる(はたす)(学校行事について)【Q59】

① 【1年生】



② 【2年生】

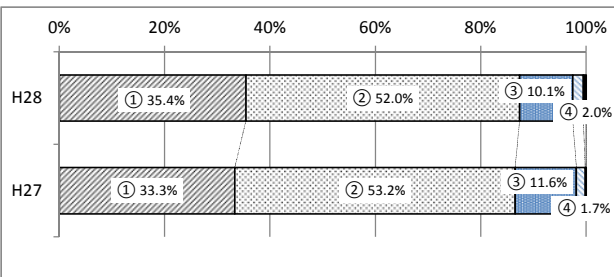


・学校生活に積極的に取り組んでいると回答した生徒はおよそ8割。2年生では、1年時よりも減少。

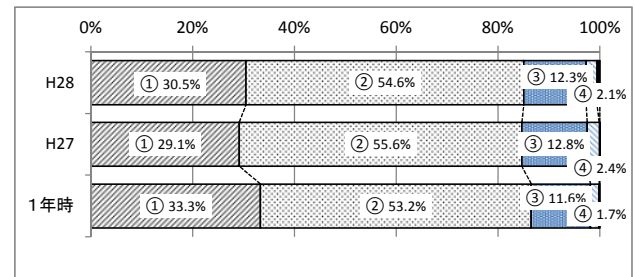
(3) 「志教育」に係る意識の変化について1

ア 人が困っている時は、進んで助けるようにしている(かかわる)(他者理解について)【Q38】

① 【1年生】



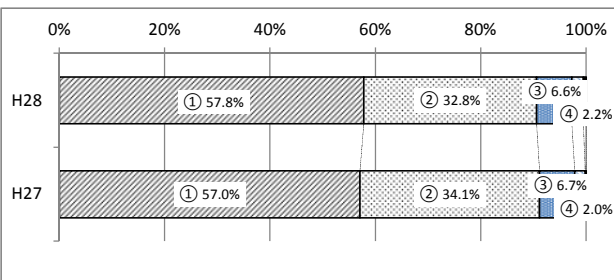
② 【2年生】



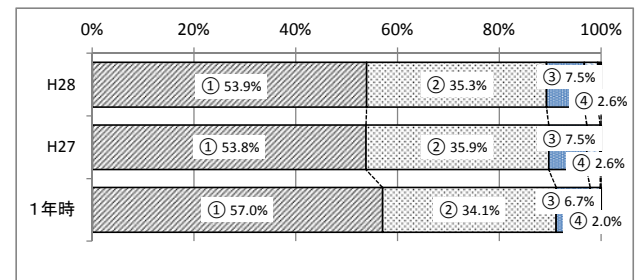
・人が困っている時に、進んで助けるようにしている生徒の割合は8割超。2年生では、1年時よりもやや減少。

イ 人の役に立つ人間になりたいと思っている(もとめる)(志について)【Q49】

① 【1年生】

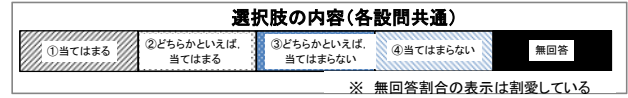


② 【2年生】



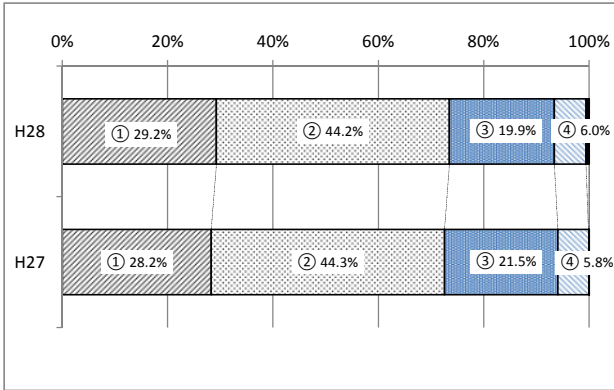
・人の役に立つ人間になりたいと思っていると回答した生徒はおよそ9割。2年生では、1年時よりも減少。

#### (4) 「志教育」に係る意識の変化について2

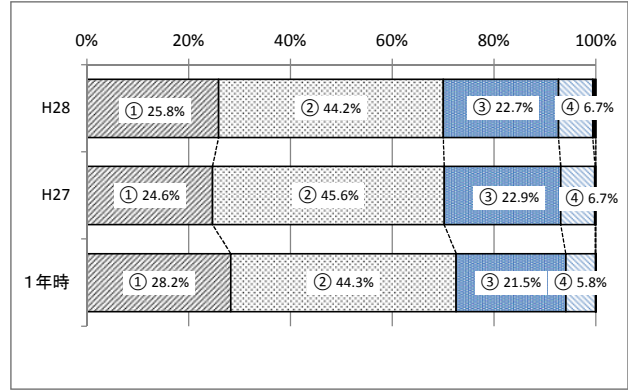


##### ア 自分の個性や適性が分かっている(もとめる)(自己理解について)【Q52】

###### ① 【1年生】



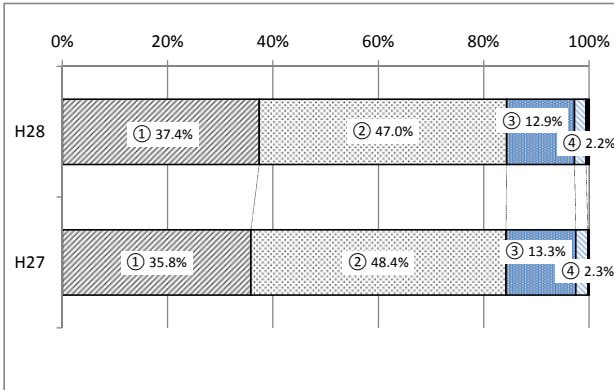
###### ② 【2年生】



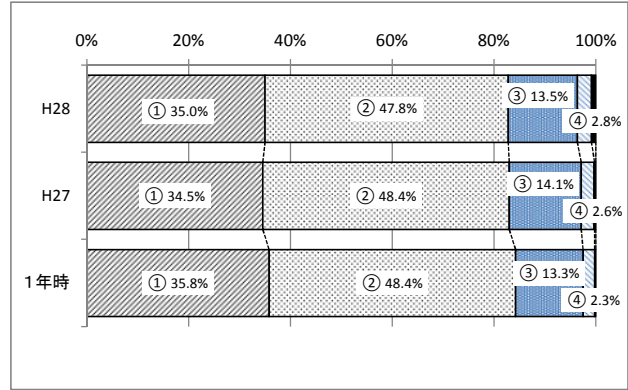
・自分の個性や適性が分かっていると回答した生徒は7割程度。2年生では、1年時よりも減少。

##### イ 働くことの意義を理解している(はたす・もとめる)(勤労観・職業観について)【Q57】

###### ① 【1年生】



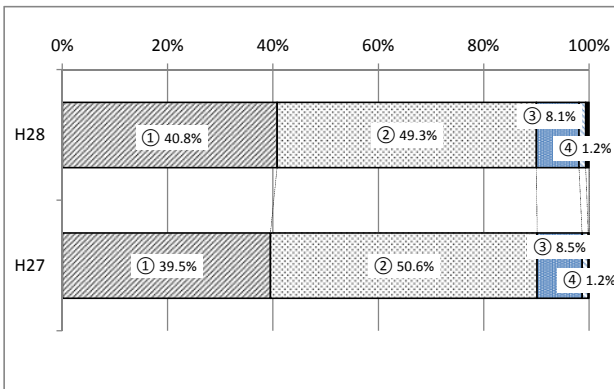
###### ② 【2年生】



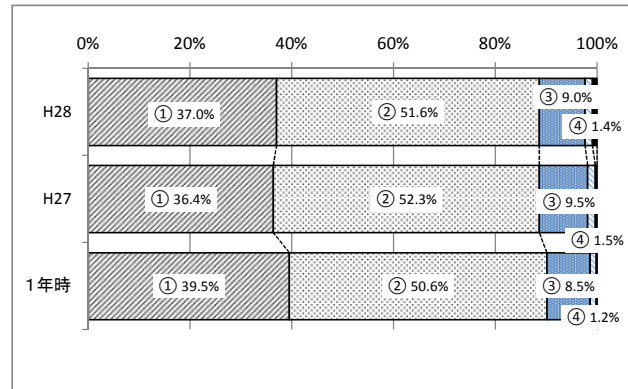
・働くことの意義を理解していると回答した割合は、8割超。2年生では、1年時よりもやや減少。

##### ウ 自分の役割に責任を持って行動している(はたす・もとめる)(有用感について)【Q58】

###### ① 【1年生】



###### ② 【2年生】



・自分の役割に責任を持って行動していると回答した割合はおよそ9割で、前年度並み。

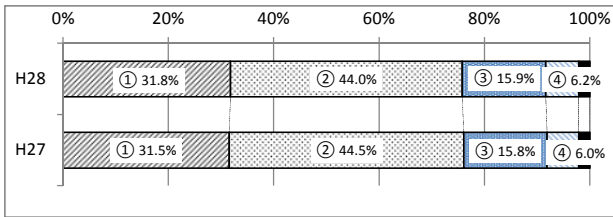
## (5) 高校入試について

選択肢の内容(各設問共通)				
①当てはまる	②どちらかといえば当てはまる	③どちらかといえば当てはまらない	④当てはまらない	無回答

※ 無回答割合の表示は割愛している

ア 高校入試(学力検査)は、学習意欲の喚起や学習習慣の形成に役立っている(学力向上について)【Q44】

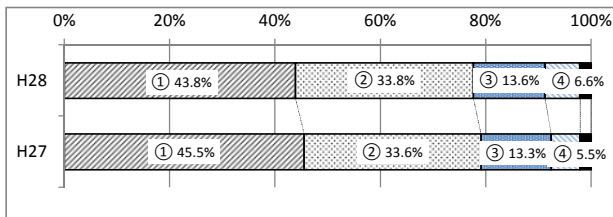
【1年生】



- 学力検査の実施が学習意欲の喚起や学習習慣の形成に役立っていると回答している割合は前年度同様75%超。

イ 高校入試は、将来について考える機会になった(主体的な進路選択について)【Q45】

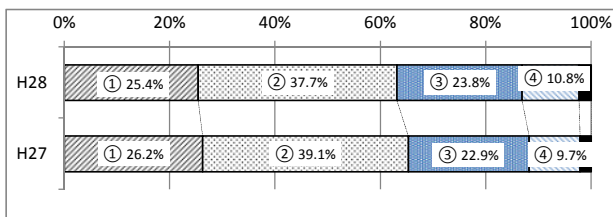
【1年生】



- 高校入試は、将来について考える機会になったと回答している割合はおよそ8割。

ウ 高校入試は、中学校生活や高校生活の充実につながっている(学校生活の充実について)【Q46】

【1年生】



- 前年度同様6割超の生徒が、高校入試は、中学校生活や高校生活の充実につながっていると回答。

### 新入試制度のねらい

我が県の入試制度は、入試を通じ、中学生が、高校生活や、その先の自らの将来について展望する契機とすることで、受験生の主体的な進路選択と目的意識の明確化を促し、ひいては、一人一人の学校生活の一層の充実につなげることをねらいとしている。

◎ 調査結果からは、各高校の進める特色づくりや、これを踏まえた出願基準の設定、学力検査の導入等の制度変更により、中学生の主体的な進路選択と目的意識の明確化、学習意欲の喚起等、新入試制度のねらいに沿った効果が表れている。

## Ⅲ 学力向上に向けた今後の取組

### 【各学校の取組】

授業の質の向上と家庭学習習慣の確立に向けた取組により「確かな学力」の育成を目指す。

#### ○授業改善の推進

授業理解度は上昇傾向にあるが、授業が理解できないとする生徒が半分程度いることからアクティブ・ラーニングの導入など授業改善に向けた取組の一層の充実が望まれる。

#### ○家庭学習時間の確保

学習記録簿の活用，家庭学習計画立案の指導，毎日の適度な量と質の宿題，授業における小テストの実施などの工夫により，家庭学習の習慣付けのための取組の継続が望まれる。

#### ○「志教育」の充実，様々な学習機会の提供

授業や総合的な学習の時間など，あらゆる教育場面を効果的に利用しての「志教育」の推進，朝自習や朝読書，放課後学習会など，様々な学習機会を提供する取組の継続が望まれる。

#### ○家庭と学校との連携

家庭学習上の悩みとして「家庭学習に集中できない」と答える生徒の割合が多いことから，個別面談やカウンセリングの実施に加え，家庭と学校とのより一層の連携強化が望まれる。

### 【県教育委員会の取組】

研修会等による教員の資質向上と各種事業の展開により高校生の「学力向上」を支援する。

#### ○調査の継続的实施

学力状況調査，意識調査を継続的に行い，状況を正確に把握し続ける。

#### ○学力向上施策の推進

授業力向上事業，進学拠点校学力向上事業等の学力向上事業を推進し，各学校における学力向上に向けた取組を支援する。

#### ○教員の資質向上施策の推進

機関研修の充実，校内研修会の開催支援策の充実により，教員の資質向上を図る。

### 【全体的な取組】

